

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇昨年度までの研究で、「自己肯定感・自己有用感」が高まる授業構築を行ってきた結果、札幌市共通指標アンケートでは、「自分にはよいところがある。」「自分が必要とされている。」「人の役に立ててうれしいと感じることがある」という項目は肯定的な回答が上昇し、児童の自己肯定感・自己有用感が高まってきている。</p>
	<p>◇札幌市の共通指標アンケートの「人のよいところを見付けようとしている。」という項目の肯定的な回答は前年度に比べ、4.5%低くなっている。 ◇「自分が必要とされいると感じる」という項目は、前年度より0.9%上昇しているが、それでも72.1%とほかの項目に比べて低い。 ◇教職員も交流の場の設定やタイミング、その効果について悩みを抱えている人が多く見られる。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇札幌市の共通指標アンケートの「人のよいところを見付けようとしている。」という項目においては、肯定的な回答が前年度より2.5%低くなっている。引き続き、行事や異学年交流などで、自分の頑張りや友達のよさが認められるような場を設定しつつ、日々の授業の中でも相互承認の感度が上がるような場を意図的に設定していくことが重要である。また、学習の中だけでなく、日々の学級経営などについても、相互承認につながる取組などを取り入れていきたい。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学びに自信をもち、自己有用感を高める子ども

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>◇研究副主題「個の学びを深め、仲間とつながる授業」の実現</p> <p>(1) 子どもの思考を促す教材化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考を促す課題設定 ・交流を生み出す教材の工夫 <p>(2) 学びを深める教師の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの言葉を価値付けて共有する ・学びが深まる問い返し ・課題に適した交流の場の設定 	<p>①自分たちの生活を振り返る場の設定 →「はーとあいて」を基準とした生活目標の設定とキャリアパスポートの実施</p> <p>②異学年交流の取組 →全学年縦割り活動を行うことにより、自分たちでお互いの気持ちを考え、創造的な活動を目指す。</p> <p>③学習での自主的な活動 →総合的な学習等で学びの選択や見直しをもって、主体的に追究できる構成になるよう工夫する。</p> <p>④委員会活動の主体性向上 →「やらされる」活動から「創り上げる」活動になるよう、児童が企画・運営する。</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p>		
<p>◇主に(1)・③の項目について、児童の視覚にうったえる教材化・教具化をすることで学ぶ意欲への足がかりにする。また、児童が様々なツールによる学び方について知り、それらを活用する機会を設けることで、個別最適な学びに繋がるようにする。</p> <p>◇主に④について、児童の思いを形にする際の用具として用いることで、活動を創り上げる力が伸びていくようにする。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

